



## 役職者・スタッフ異動をきっかけに

看護部運営委員 小松 由美子

長かった酷暑もようやく一段落し、さわやかな季節となつてまいりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

看護部運営委員会では来年4月の新棟第一期オープンに向け、設備・備品購入・引越し計画などを検討しています。具体的には、病棟処理室に設置するベッドパン（便尿器を洗浄乾燥するマシン）・介助入浴用リフトなど看護に必要で、衛生的・機能的な備品購入を心掛けています。また、高額な備品には魅力を感じますが、現状では「節約」の精神で堅実に選択しています。

看護部は10月1日付で看護師長をはじめ、12名の役職者が異動いたしました。愛着のある旧部署から新たな部署に異動することは、師長であっても不安ですが、看護部・病院全体の活性化に繋げ、新棟完成に向けて飛躍の一助を担いたいと考えています。

新棟の診療科の振り分けは混合病棟が多いことが特長です。看護スタッフは今までの看護実践やスキルが生かされる配属になるよう調整していますが、同時に新たな知識・技術の習得の機会でもあります。チャレンジ精神で新たな職

場に臨むことを期待したいと思います。

新棟引越しと同じくして、電子カルテも運用開始となります。業務のスリム化・効率性の向上、記録の簡略化を図り、ベッドサイド業務の充実・患者様満足度の向上を目指したいと考えています。

最後に、この度看護部は新たなユニフォームを購入しました。水色を基調とした従来のユニフォームに加え、白襟のパンツスタイルです。幅広い年齢の看護師に対応できるデザインが選択できたと思います。

## 大きな存在感を作る小さな行動

—リーダーシップの本質とは—

株式会社 日本経営  
部長 小畑 隆成



激変する医療経営環境下、地域医療の中核を担う病院経営においては様々なチャレンジ（挑戦）とイノベーション（変革）が求められています。これには「リーダーの成長」こそが最大のポイントと言えます。ここでいう「リーダー」とはある特定の人物や役職を指すものではありません。当然、役職に就く方には相応のリーダーシップと成長が期待されますが、リーダーシップが「相手の心に働きかけ、行動を促す影響力」と訳される事を考えると、それこそチームで働く全員が対象ともいえるでしょう。

リーダーシップというとやや固い印象になりますが、平たくいえば「周囲に対する良い影響力の発揮」と言い換えることができます。「良い影響力の発揮」とは、例えば誰よりも気持ちの良い挨拶、床に落ちている小さな埃にいち早く気付いてさっと手にとる事が出来る気配りなど、ほんのちょっとした行動の積み重ねだと思えます。それら一つ一つの行動は小さいようでも病院全職員の総和となれば、それは地域にとって、とてつもなく大きな存在感となるに違いありません。



日本経営による中間管理職員研修の様子

忙しい日々の中ですが、地域になくはならないチーム創りのために、何とか工夫し、お互いに学びを深めていきましょう。

## 認定看護師としての当院での役割

救急看護認定看護師 富岡 久美子

現在認定看護師として救急日に外来を担当し、患者さんの対応と、現場で看護スタッフへの指導や役割モデルとなるように活動しています。また、救急医療は多職種で行うチーム医療であり、職種間の調整役割も担っています。

当院は、松山医療圏域の基幹病院として、救急当番日に発症する軽症から心肺停止状態の幅広い救急患者さんを全て受け入れています。平成 24 年度は救急患者総数 10,649 人、救急車受け入れ台数 2,945 台で年々増加しています。

本年 4 月からは、病院北側の道路に面した救急車専用搬入口から直接 ER（emergency room）に搬入することで、より迅速に治療を開始できるようになりました。それに伴い、救急日はもとより、当院かかりつけ患者さんの容態変化時や地域連携を通じた紹介患者さんの救急車受け入れもスムーズになりました。救急患者さんの診察場所は重症度に応じて ER、内科、外科系、小児科と分かれており、各ブースでより重点的な医療・看護を提供することができます。

今後、救急対応室の拡大が計画され、ハード面での整備が進み、スタッフのモチベーションが高まる中、ソフト面では救急スタッフへの教育・指導を行い、救急医療・看護の充実を図っていききたいと考えています。



救急看護認定看護師としての活動は始まったばかりですが、地域住民の方々に安心して救急外来を受診していただけるよう努めていきたいと考えています。